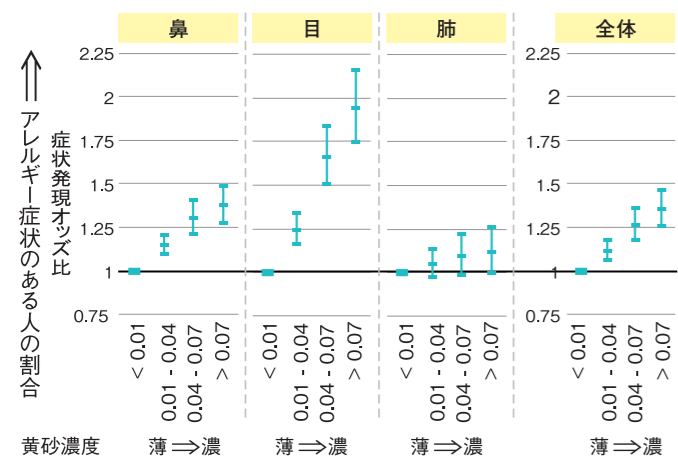


黄砂・PM2.5のアレルギーへの影響

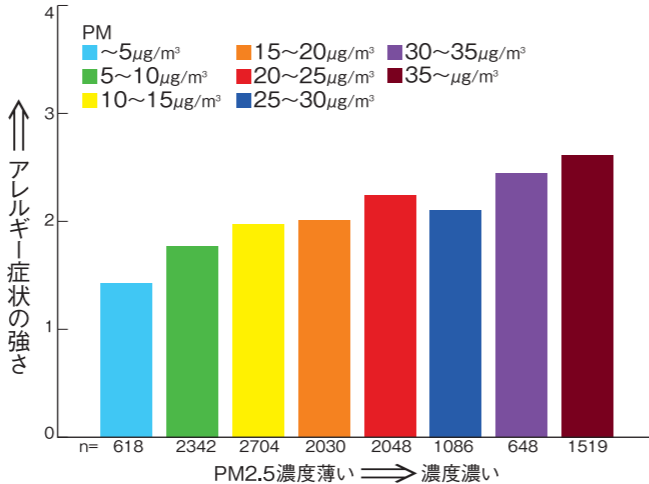
これまでに、黄砂が飛来すると、ぜん息の子どもが入院する危険性が高まることが報告されていますが、黄砂のいったい何が悪いのか、そして、黄砂や黄砂と一緒に飛来する大気汚染物質の長期的な影響や他のアレルギー疾患への影響については、詳しいことはわかっていません。そこで、エコチル調査の富山大学、京都大学、鳥取大学の研究グループが、黄砂の問題を明らかにするために共同で調査を行いました。京都ユニットセンターの金谷久美子先生にお話を伺い、これまでの調査結果から分かってきたことを高知の皆さんにご紹介いたします。

(出典：Ann Allergy Asthma Immunol. 2016 May;116(5):425-430.e7.)

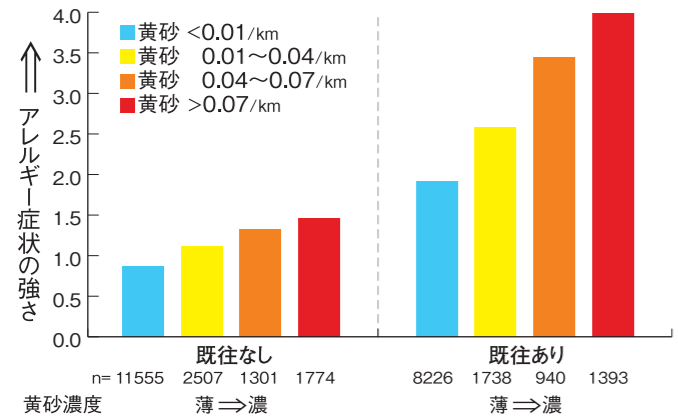
▶黄砂濃度とアレルギー症状 (鼻・目・肺の症状)



▶PM2.5濃度とアレルギー症状 PM2.5低濃度から用量反応性



▶黄砂濃度とアレルギー症状 アレルギー性鼻炎・花粉症の有無



黄砂濃度が上がるにつれて目・鼻・肺などの症状についても、症状のある人が増えていました。目で見ても分からないくらいの濃度でも、それなりに症状に影響があるようです。またPM2.5でみても、低い濃度から濃度が上がるにつれてアレルギー症状のある人が増える様子が伺えます。



黄砂やPM2.5が花粉症やぜんそくなどのアレルギー症状を悪化させることが分かってきました。環境省の黄砂飛来状況調査では西日本の方が北・東日本よりも相対的に高濃度だという報告があります。アレルギー症状でお困りの方は、春先の飛来時は窓の開閉を控え、外出時はマスクを着用するなどすると症状を軽減できそうです。

お問い合わせ
0120-53-5252 | 年中無休 | 9:00-22:00 |
エコチル調査 | 検索 | http://www.env.go.jp/chemi/ceh/

◆こうちエコチル調査に関するお問い合わせ<高知県>
登録された内容に変更があった場合は、下記までご連絡ください。
TEL 088-880-2173 | 土・日・祝日をのぞく | 9:00-17:00 |
mail info@kochi-ecochil.jp
こうちエコチル | 検索 | http://kochi-ecochil.jp/
| 高知大学医学部内 エコチル調査 高知ユニットセンター事務局 |
〒783-8505 南国市岡豊町小蓮
| 高知大学内 朝倉分室 | 〒780-8520 高知市曙町2丁目5-1

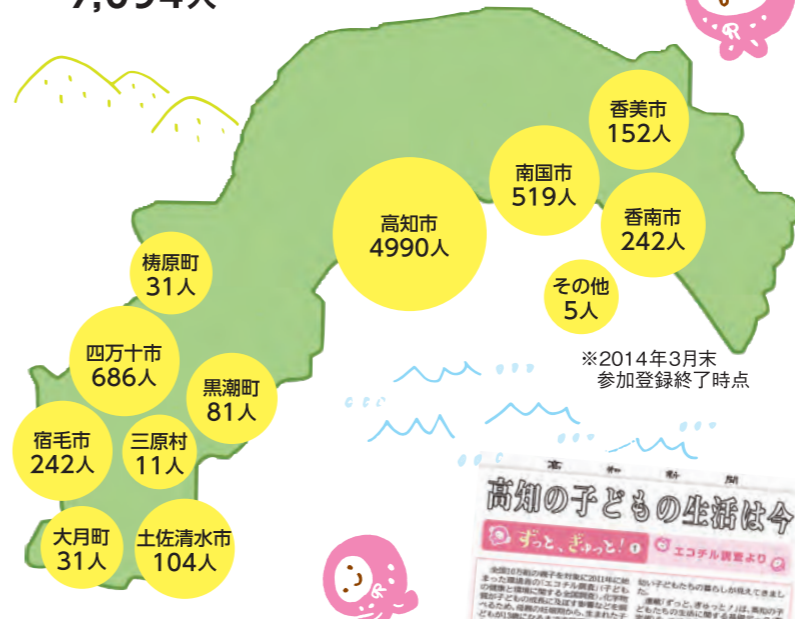


「子どもの健康と環境に関する全国調査」 エコチル調査報告書 エコチル調査で分かってきたこと



エコチル調査は、平成22年度に環境省が始めた大規模な国家プロジェクトです。全国で約10万人、高知で7,000人を超えるお子さんと親御さんに参加登録いただきスタートした調査は、平成29年度で7年目に入りました。平成29年12月現在、3歳~6歳半のお子さんとそのご家族に対し、半年に一回の質問票による全体調査と、5%の参加者を対象にした詳細調査が行われています。ご協力いただいた試料(尿や血液など)の分析や解析も順次進められ、これまでの調査から分かってきた研究結果が随時発表されています。子ども達の健康のために、調査へのご理解とご協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。

▶こうちエコチル調査参加登録数 7,094人



高知新聞へ高知エコチル調査連載
「ずっと、ぎゅっと!高知のエコチル調査より」
2017年5月5日~7月末まで、
全30回の連載記事が掲載されました。

●高知新聞ホームページでご覧いただけます。
https://www.kochinews.co.jp/article/129479/



婦人科疾患 産後うつリスクに

高知大学の研究者が「日本人女性における産後うつと妊娠前の婦人科系疾患の関連性について」の研究論文を発表しました。今回の研究で、妊娠前に子宮内膜症や月経困難症、不正子宮出血など婦人科系疾患のある人は産後うつを発症するリスクが高まることが分かりました。

4月24日、高知大学医学部にて、菅沼成文教授、コンゴから留学している産婦人科医ムチャンガ・シファ研究員らによるこのエコチル調査の研究発表を行いました。

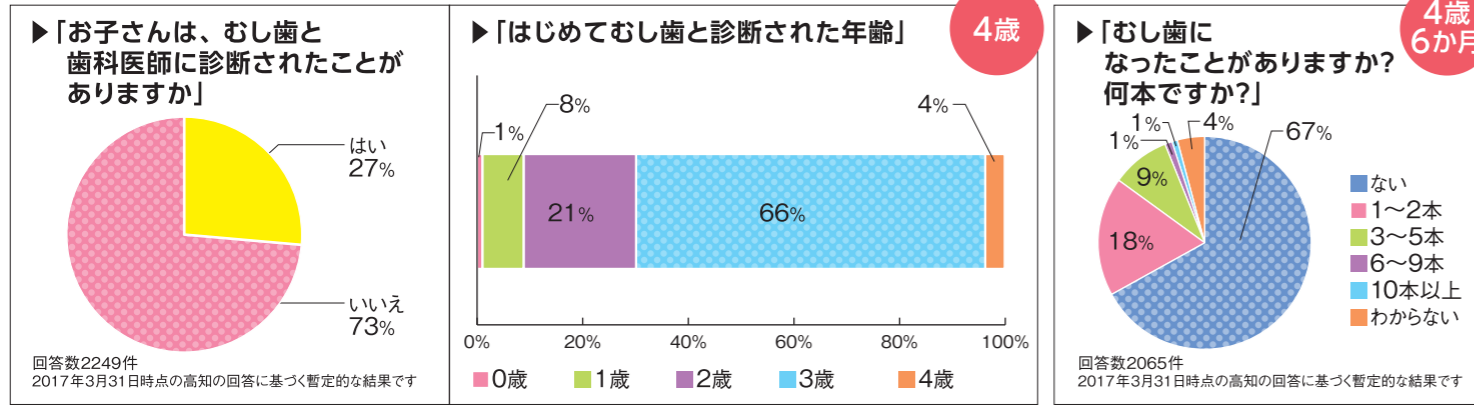


Journal of Affective Disorders 217
電子版に掲載



むし歯の状況

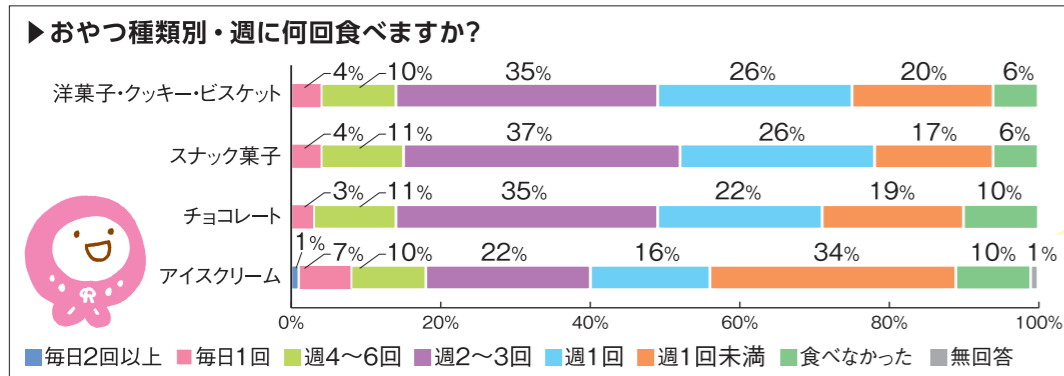
4歳のお子さんについて、生まれてからこれまでにむし歯と診断されたことがあるかお聞きしました。むし歯と診断されたことのあるおさんは27%でした。また、むし歯と診断されたことのあるおさんに対し、4歳までにはじめてむし歯と診断された年齢についてお聞きすると、3歳が最も多く、0歳でもむし歯のあるおさんが1%いました。



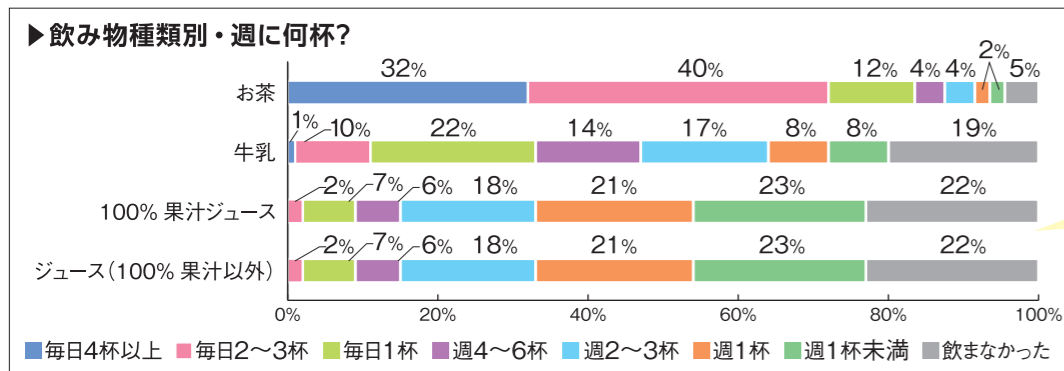
平成28年度の文部科学省・学校保健統計調査によると、幼稚園児でむし歯がある(処置歯含む)割合は昭和45年のピーク時の全国平均95%から現在は36%で減少傾向です。しっかりむし歯予防を行って、これからもむし歯0本を目指したいですね。生えて間もない乳歯はまだ十分に硬くなっておらず、永久歯よりむし歯の進行がはやく、赤ちゃんの頃からのむし歯予防が重要です。

おやつに何を食べているのかな?

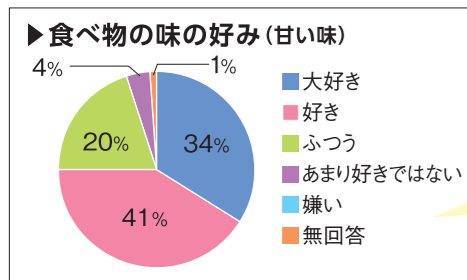
4歳6か月質問票・幼児のための食事質問票(回答数2,249件)にお答えいただいた中から、おさんのおやつについて高知の状況をお伝えします。



おやつの種類別に食べる頻度を見ると、甘いお菓子、スナック菓子の頻度に大きな差は見られませんでした。



日常にお茶をよく飲んでいるという結果となりました。甘いジュースよりも牛乳を飲んでいる頻度が多いですね。



食べ物の味の好みについて、甘い味が「大好き」「好き」という答えを合わせると計75%でした。

(2017年10月4日時点の高知の回答に基づく暫定的な結果です) 数値は小数点以下四捨五入しています。%の加算値がちょうど100にならないものがあります。

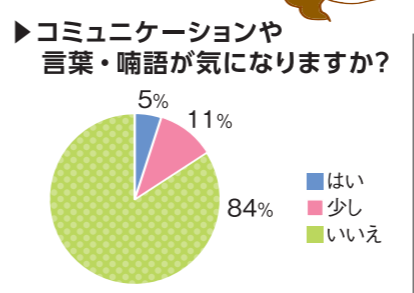
こうちエコチル調査 2歳~3歳児 「社会性発達に関する追加調査」より

パパ・ママの気になっていること

この調査では、参加者の2歳~3歳のお子さまを対象に現在の成長の様子、特に社会性発達に関するアンケート調査を行いました。現在はお答え頂いた回答から調査研究をすすめています。2~3か月にわたって気になっていることの欄へ沢山の方から記入を頂きましたので、集計結果の一部をご紹介します。(回答数868件 2017年4月19日時点の回答に基づく暫定的な結果です。*2014年生まれのお子さん対象)



気になること 言葉

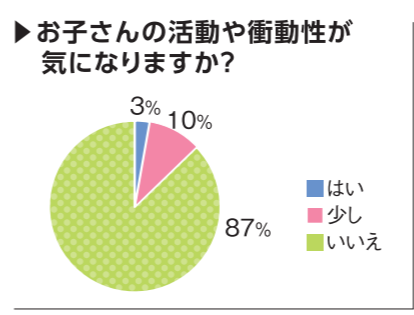


言葉を話すのが遅いように感じます。同じ年の他の子と比べると遅いかも...

●臨床心理士の先生に聞きました
2歳までは言葉の発達の個人差は大きく、子どもの「言葉の発達の遅れ」の相談にのる際に、私達専門家は、大人やお友達に興味を示しているかをポイントにしています。「言葉」は人とのコミュニケーションの道具なので、子どもが、「人と何かをして楽しい=お友達と遊ぶことが楽しい!」と思うようになると、「人に何かを伝えたい」という気持ちから、「言葉」を使おうとします。子どもが、まわりの人と一緒に遊ぶことの楽しさを知ると、言葉で欲求を伝えることが増えてきます。3歳を過ぎても、親以外は子どもの発する言葉を理解できない、2語文しか話さないなど気になることが続いている場合は専門家*1に相談をすると安心ですね。



気になること かんしゃく

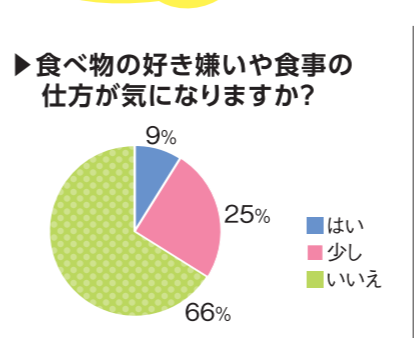


うちの子は、ちょっとしたことで怒るんです。いらいらしやすい気がします。

●臨床心理士の先生に聞きました
2歳になると、自分のしたいことを言葉で上手く表現できないために、欲求不満からかんしゃくを起こすことが多くなります。年齢が上がり、言葉で気持ちを伝えることができるようになって、他の人と上手に遊んだり、楽しく一緒に過ごすことができるようになってかんしゃくは少しずつ減ってきます。他に、子どもの性格(感受性が強い、気持ちをすぐ行動に移してしまう、気が短い)や両親の態度に一貫性がないことも子どものもかんしゃくの原因になります。子どもに感情のコントロールを教えるためには、まずまわりの大人が落ち着くことが大切です。場所を変えることで気分が落ち着くこともあるので、どうしても落ちつかないときは、親子で部屋を移動したり、気分を変えてみてください。子どもが我慢を覚えるには、時間がかかります。一人でストレスをためないように、周りの人やご家族に相談したりしながら、対応してみてくださいね。



気になること 食事・好き嫌い



好き嫌いが多くいます。野菜を食べなくて...

●高知特別支援学校 栄養教諭 北村真知子先生に聞きました
子どもは成長につれて生活の経験が広がり、いろいろな食べものに接する機会が増えます。そうすると、食事の好みにもそれぞれの個性や特徴がみられるようになります。保護者の願いは「なんでも食べられるようになってほしい」だと思いますが、なかなか願いが叶うにはいかないというのがみなさんの実感ではないでしょうか。幼児期に大切な栄養素をしっかりと摂ってほしい気持ちを、こはぐつとがまんして、あせらずじっくり、子どもの様子を見ながら食べられるものをふやすようにこころがけてみませんか。子どもは大人を見ています。まわりの大人がまずはおいしそう~に食べる!「おいしいね」と言いながら楽しく食べる! こんな姿を見ているうちに、子どもは安心感を得ます。「この食べものは大丈夫なんだ」と学びます。保護者が食事を用意する姿を見せ、自分のためにしてくれているんだなあ、と感じることも将来に温かい影響を与えることでしょう。食事内容は大切ですが、がんじがらめにはならないで、私たち栄養士をはじめ、各方面の専門家に相談していただきながらみんなで育てあいましょう。



(※1) 困ったときは・・・?

お悩みによって、県や市町村、医療機関などに相談窓口があります。まずは、お近くの地域子育て支援センターや市町村の母子保健担当課にご相談ください。

お役立ちサイト情報

- ◆こうちプレマnet・公的な子育て広場等 地域の子育て支援センターなどの一覧です
- ◆高知家の出会い・結婚・子育て応援コーナー 地域・項目別に色々な支援制度を検索できます